

戦争の先兵＝共産党許すな！



全国大学で反戦ストを！

◆戦争の激化が「11.13パリ事件」の元凶だ！

11月13日夜の、フランス・パリでの「イスラム国」による同時爆破・銃撃事件に関し、オランダ政権はただちに「国家非常事態宣言」を発し、「同じだけの報いを与える」（バルス首相）として15日に「イスラム国首都」であるシリア・ラッカへの大規模空爆を行った。各国が一斉に「テロ非難」と「イスラム国絶滅」を絶叫している。しかし、一切の元凶は、アメリカやフランス、そしてロシアなどによるイラク・シリアへの空爆と中東侵略戦争のエスカレーションにある。

韓国では11月14日、戦争と貧困を強制するパククネ政権打倒の15万人のデモが爆発した(=写真上)。国境を越えた労働者・学生の団結とストライキが戦争をとめる道だ！

◆「反テロ」宣伝の先兵＝共産党許すな！

各国とともに中東侵略にのめり込み、中東の労働者民衆を虐殺している安倍政権とともに「テロ弾劾」を叫び、侵略戦争のお先棒を担っているのが日共(=日本共産党)だ。

日共は、11月13日の事件後、「パリ無差別テロ 卑劣な犯罪を厳しく糾弾する」なる論文を『赤旗』で発表した。この中で「フランスがアメリカなどで行っているシリアでの武装勢力への空爆との関係を指摘する声もあります。…し



【11.1労働者集会】日比谷野音に全国・全世界から5700人が結集！

かしフランスの軍事行動を批判することで、無差別テロは正当化できません」、「世界では戦争とテロの悪循環が続いています。しかし、戦争でテロがなくせなかったのは明らかであり、テロと戦争の悪循環をやめることこそ国際社会の急務です。『有志連合』による対応に傾斜するのではなく、国際社会が一致してテロ根絶に力を合わせるこそが重要です」、「事件を徹底的に迫及し、テロリストを追いつめるとともに、無法なテロを世界から根絶するよう、法と正義にもとづき国際社会が力を尽くすことが急務です」などと、安倍政権と同じ視点で「テロ弾劾」を叫んでいるが、歴史的・現代的な中東侵略の残虐きわまりない戦争の事実についてはただの一言の批判もない。

全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp

「安保廃棄は凍結」「自衛隊活用」こそ日本共産党の本性

「国民連合政府」は戦争協力宣言だ！



日共・志位委員長は、彼らの提唱する「国民連合政府」に関連して10月15日に講演し、「安保条約に従う」「自衛隊は有事に活用する」と力説した。「国民連合政府」提案が積極的な戦争協力宣言であると明らかにした。「国民連合政府」は、「戦争法の廃止」「昨年7・1の閣議決定を白紙に戻す」の2点を実現するためと説明されてきたが、その具体化が「安保廃棄の方針は凍結」「自衛隊は有事に活用」方針なのだ。これのどこが「戦争反対」か！日共は「戦争法反対」のポーズをとりながら、戦争反対の多くの労働者・学生の思いを踏みにじり、沖縄基地建設や福島切り捨てを進める連中と手を組み、改憲勢力とも一体化している。許せない！

◆「資本主義社会の改良」を叫ぶ日本共産党

日共はあたかも“イラク・シリア空爆に反対している”ポーズをとりながら、その本質が米英仏の侵略戦争である視点に敵対している。「戦争も悪いがテロも悪い」なる俗論で労働者人民の目を曇らせ、「テロとの闘い」を口実にした侵略戦争こそが一切の元凶であることから目をそらさせている。日共は帝国主義の打倒と世界革命を目指す闘いに反対し、「帝国主義の下での平和」「資本主義の中での安定した生活」が可能であるかのように描いている。

いま全世界で「1%」の資本家に対し、「99%」の労働者民衆が「生きさせろ！」の闘いに立ち上がる中、日共はその怒りをすべて「選挙での投票」に流し込み、安倍政権と戦争政治を支える最悪の役割を果たしている。

◆労働者・学生の実力闘争に敵対

日共は、「フランスの軍事行動を批判することで、無差別テロは正当化できません」(前記論文)として“帝国主義戦争を批判するな！”と恫喝している。日共は「テロを世界から根絶するために、国際社会の一致結束した取り組みが急務」(15日の志位談話)とブルジョアジーに呼びかけても、「戦争と搾取の元凶である帝国主義を打倒しよう」と労働者民衆に呼びかけることは絶対がない。

日共や御用学者らが主導しているSEALDs運動が、国会前では「弾圧されたら終わり」「警察ありがとう」を叫び、職場・キャンパスでは一切声をあげないことと一体だ。戦争を止める道は、いかなる弾圧もはね返し、職場・キャンパスから立ち上がる中にこそ、戦争を止める道がある！

さらに、「テロと戦争の悪循環」などと日共が連発していることは重大だ。「労働者階級の力で帝国主義戦争を止められない」という無力感を人民に植えつけるためのものだ。そして「悪循環」をなくすために「国際社会の一致結束した

取り組み」で「過激派」をもっと厳しく取り締められと支配階級にお願いしている。今回の事件の衝撃で「いかにしてこの現実をのりこえるのか？」と苦闘する労働者階級に対し、最悪の「回答」を提示しているのが日共なのだ。

しかし、「イスラム国」の思想と路線では戦争を止められないし、帝国主義の階級支配も根絶できない。「イスラム国」は労働者階級の闘いを襲撃し破壊する反革命だ。労働者階級の国際的団結とプロレタリア革命にこそ展望がある。11・1労働者集会は、ゼネストと国際連帯に戦争を阻止する道があると示した。そして11月14日、民主労総が軸になった民衆総蜂起大会が15万人の大結集でうち抜かれ、パクネ政権を追い詰めている。11・14闘争は「資本主義の根底的変革＝革命」こそが唯一の展望であると全世界の労働者人民に訴えている。日共のように「階級対立の非和解性」を否定し、「自衛戦争」を容認しては絶対に国際連帯は形成できない。職場・キャンパスで資本と絶対反対で闘い抜こう。全国大学反戦ストライキを実現しよう！

京大ストライキへの報復弾圧許すな！

11.26京大集会

11月26日(木) 正午～ 京都大学にて

10月27日、京都大学全学自治会同学会が反戦ストライキに立ち上がりました(=写真下)。戦争法成立と同時に激しく進行する大学での戦争協力(軍事研究や学生運動弾圧)に対する抗議のストライキです。安倍政権と京大当局はストライキへの報復として家宅捜索など弾圧を強めています。絶対に許せません。11月26日には京大同学会の仲間がキャンパスで抗議集会を呼びかけています。

「単位・就活・奨学金」で学生を縛りつけ、戦争への道に突き進む大学(教育)を学生の手で奪い返すために、京大ストライキを全国大学に拡大しよう！

